

保険者保有データの活用

データヘルス計画の一環として、レセプトと健診・検診結果を活用した医療保険加入者の健康づくりと疾病の早期発見・早期治療の実現

おがわ としお

教授 **小川 俊夫** (公衆衛生学研究室)

E-mail toshio.ogawa@setsunan.ac.jp



食品栄養
 学科

キーワード 健康保険組合 データヘルス計画 レセプト 生活習慣病
 メタボリックシンドローム 健診・検診 がん早期発見

研究概要

背景

- データヘルス計画により、保険者はレセプトや健診・検診など保有データの活用が求められています。
- 多くの保険者では、保有データを充分には活用できていないのが現状です。
- メタボ対策に積極的に取り組んでいる保険者は多いものの、がん対策を行っている保険者はまだ少数です。

目的

- 保険者とともに、保険者が保有しているデータを見直し、その活用について考えます。
- 保険者における保健事業の見直し、健康づくり活動の実現を目指します。
- 保険者協議会、地域医療構想などに活用できるエビデンスを創出します。

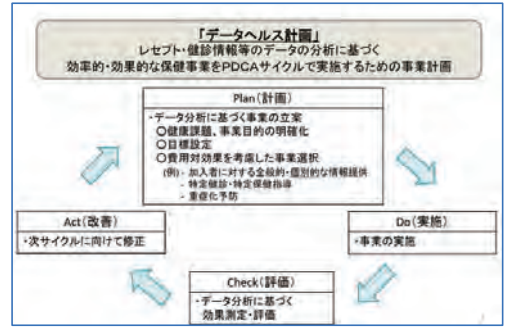
主な成果

- 保険者データを用いた分析用DBの構築とデータ解析を、保険者施設内で実現するスキームを確立しました。
- 全国健康保険協会（協会けんぽ）や健保組合などで、本研究のスキームを用いた保健事業の見直しや健康づくり活動を実施しています（文科科研費研究など）。
- レセプトを用いたがん患者の正確な特定手法を開発し、実用化の検討をしています（厚労科研費研究）。

連携への展望

【保険者・医療機関・検診機関の連携強化】 保険者データを活用することで、保険者・医療機関・検診機関との連携の強化につながり、住民の健康づくりとがんなど疾病の早期発見・早期治療の実現を目指します。

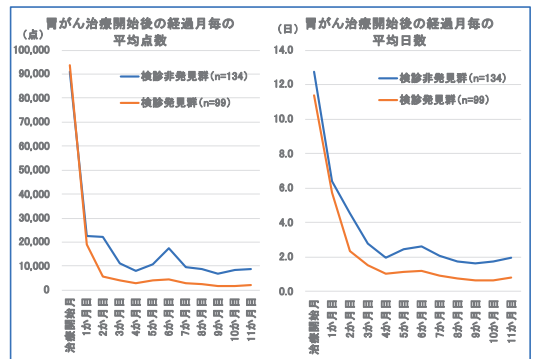
【地方自治体との連携】 地域住民の健康状態の把握と向上、さらに医療サービスの地域連携の実現に資するエビデンスを提供します。



データヘルス計画 (厚労省資料より)



生活習慣とメタボとの関連分析の一例
 (2016年日本公衆衛生学会総会にて発表)



レセプトを用いた胃がん検診の効果分析の一例
 (2019年日本公衆衛生学会総会にて発表)



アピールポイント

保険者保有データの活用による研究を進め、その知見を保険加入者の健康づくりと保険者運営に活かし、わが国の医療制度の維持発展に役立てます。